

水泳4種目出場 狙え表彰台



大学のプールで意気込みを語った岡島さん＝美浜町奥田の日本福祉大で

日本福祉大・岡島さん

自己ベスト更新へ意欲

22日に中国・杭州で始まるアジアパラ競技大会の水泳競技4種目に、美浜町奥田の日本福祉大スポーツ学部2年、岡島貴太さん(19)が出場する。来年のパリパラリンピック出場を目指している岡島さんは「表彰台に上がり、全種目でベストを更新したい」と意気込む。

(石井豪)

杭州アジアパラ大会

「めっちゃめっちゃうれしかった」。先月に開かれたジャパンパラ水泳の男子50メートル自由形S9クラス(腕や足の欠損やまひなど)の決勝後、岡島さんは涙を流した。

2016年のリオデジャネイロパラリンピックで銅メダルを獲得し、同種目の日本記録を持つ

引退レースで、初めてに勝ったからだ。優勝の勢いそのままに直後の1000メートルバタフライでも自己ベストを更新。アジアパラ大会での躍進を予感させた。

岡島さんは生まれつき右肘の先が短い。水泳を始めたのは5歳のころ。親に勧められ、地元豊田市のスイミングスクールに通い始めた。「速く泳ぐというよりは泳ぎ方を覚えるためだった」と幼少期

を振り返る。

転機は中学2年。世界で活躍する選手の発掘を目的にした「J-STARTARプロジェクト」に応募したところ、上位選考まで進み、「まさか残るとは思っていなかった」。

「競技としての水泳」を意識するきっかけとなった。それからは障害者向けのスイミングクラブに入り、プロジェクトの合宿にも参加した。競技としての水泳は練習の種類も強度も大きく違った。腕と足の連動や腰を高くして水の抵抗を減らすことなど、速さを追求する泳ぎを学んだ。合宿では栄養や睡眠に関する座学もあったという。

日福大付属高に進学後は、クラブと並行して水泳部でも練習に励んだ。「先生が自分に合った練習を用意してくれた」と岡島さん。成長期も相まって記録はぐんぐん伸び、3年で出場した日本パラ水泳では50、100、400メートル自由形と1000メートルバタフライの4種目で優勝。それでもこの大会には

が出ていない。自身の泳ぎを分析する高い思考力も岡島さんの持ち味。に勝った決勝のレースでも予選の映像を見返し、見事に泳ぎを改善した。「どうすれば速くなるかを考え、修正して結果が出ればもちろんうれしいし、考える過程も楽しい」

目標はパリパラリンピック出場。来年3月の選考大会で標準記録を切るため、鍛錬を重ねている。アジアパラ大会では表彰台を狙い、選考大会に向けて弾みを付けたと考えている。

「日本記録を塗り替えるまでは日本一じゃない」と力強く語る岡島さん。19歳のスイマーは国際舞台でどんな輝きを見せるだろうか。